

農事組合法人 せんだいあらはま



えだまめ収穫の様子

経営のプロフィール

農業地帯 平地農業地域
組織形態 ぐるみ型
エリア 集落
農地集積率 72.3% (作業受託を含む)

経営概要

水稲47ha (ひとめぼれ, まなむすめ他)
 大豆10ha (ミヤギシロメ)
 施設園芸20a, 露地園芸130a (えだまめ1ha, ねぎ他30a)

主な施設・機械の保有

・トラクター6台 ・田植機4台
 ・コンバイン5台 ・乗用管理機1台
 ・パイプハウス10棟 (2,969㎡)
 ・穀物乾燥調整施設 (1機35石)
 ・えだまめ関連機械 (収穫機, 脱莢機, 選別機 等)

構成員等

構成員, 組合員: 42名
 役員 (理事, 取締役等): 6名 従業員 (常時雇用): 1名

法人設立年月日

平成27年1月22日

認定農業者認定年月日

平成29年11月30日

資本金

530万円

販売額等

3,600万円,
 収入算入交付金等: 4,000万円 (経営所得安定対策等)

役員名

代表者: 代表理事 河野 松男

補助事業, 制度資金活用実績

東日本大震災農業生産対策交付金,
 被災地域農業復興総合支援事業,
 東日本大震災地域復興プロジェクト支援事業 (農林中央金庫),
 産地パワーアップ事業

1 現在の経営状況等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

荒浜地区の農地と農業を未来へと引き継いでいくために、農地の保安全管理と雇用の創出を目的とします。

地域の財産である農地を最大限に有効活用するために、農地集積と多面的利用を積極的に行います。

5年先・10年先を見据えた農業を展開し、次世代がしてみたい!と思えるような農業を実現します。

(2) 栽培技術の特長

水稲湛水直播栽培に取り組み、労働時間の削減や労働ピークを分散し規模拡大を図っている。えだまめについては、は種から収穫後の調整まで機械化一貫体系を整えており、少人数での大規模土地利用型園芸生産を実現している。また、ミニトマトでは水稲育苗後のハウスを活用し、全農の養液栽培システムを用いながら、高品質ミニトマト生産に取り組んでいる。さらに冬場のハウスの活用として雪菜を生産している。

(3) 販売の特長

生産物はすべて系統出荷を行っている。ミニトマトについては、全農オリジナル品種“アンジェレ”の契約栽培を行い、全量、首都圏で販売されている。

えだまめについては、有利販売を目指して“朝採り枝豆”として仙台市内の飲食店に供給され、好評を得ている。

(4) 経営組織の特長

役員、従業員が参加し、毎日朝礼を行い、作業の確認や情報の共有化を図っている。その他週に1回の役員ミーティングでは、スケジュールや設備投資などについて検討を行っている。

(5) 労務管理の特長

露地、施設を活用し、野菜の生産を行うことで、年間を通じて仕事のある環境を作り、若い職員を通年雇用している。

採用に当たり、社会保険労務士の指導を受け、雇用契約書・就業規則等の整備を行い、社員が安心して働ける環境づくりを行っている。

(6) 経営管理の特長

会計期間は1~12月である。庶務や会計処理については、専任の事務担当者を置き、適切な事務処理を行っている。また、財務、税務管理については税理士より指導を受け、会計処理の適正化を図っている。

(7) その他, 特筆すべき事項

仙台農業改良普及センターでは平成27年からプロジェクト課題の対象として組織運営や栽培技術に関する支援を行っている。

2 法人設立までの変遷

(1) 法人設立の動機, きっかけ

仙台市の沿岸部に位置する荒浜地区では、震災前、温暖な気候を活かした都市近郊型農業が営まれてきた。東日本大震災の津波により、農地、生産施設、機械が甚大な被害を受け、また、災害危険区域に指定されたことで居住も不可能となった。震災後に「荒浜プロジェクト」という地域再生を目指したプロジェクトが行われ、この中で農業を行うことで人の集まる場を維持し、荒浜地区の復興につなげたいといった意向が強くなっていった。

個別担い手による営農再開は難しい状況であったことから、地域営農の再興、さらには地域コミュニティ

の再構築を目指し、41名の構成員で、集落ぐるみ型農業法人を立ち上げた。

(2) 法人化後の評価(良かった点等)

法人の役員は、震災前、兼業農家や他の産業に就いていて、震災後、本格的に農業を始めたという者がほとんどであった。震災後、初めての大規模栽培にとまどいながらも、チャレンジ精神のもと試行錯誤を繰り返し、技術習得を図っていった。津波によりほ場の地力が低下したが、大豆においては、土づくりも行き、地域平均単収を確保するまでになってきた。

構成員は皆、散り散りに暮らすのが、法人が地域コミュニティの核としての役割を果たし、草刈り作業で人が集まった時には、近況報告などが活発に行われている。

3 今後、将来に向けてのビジョン等

(1) 将来ビジョンと経営戦略等

平成29年は経営エリア内でほ場整備の面工事が行われたことから、耕作面積が大きく減少したが、平成30年以降は法人の目指す100ha超の経営を行うことになる。大面積で効率的な農業経営が行えるよう、農地の集積と栽培技術の向上による収益性の向上を図っていく。

将来的には一部部門での6次産業化による経営安定化やITの導入による農作業の効率化と収入アップを目指す。

(調査: 仙台農業改良普及センター)

略図



農事組合法人 せんだいあらはま

〒984-0033 仙台市若林区荒浜字一本杉北15-2
 TEL 022-349-4178
 FAX 022-349-4833
 URL <http://www.sendai-arahama.jp>
 E-mail info@sendai-arahama.jp

視察受入条件

受入可 (詳細については要相談)